

(素案)

提 案 書

地域のまちづくりに関する施策について

写真

平成 2 9 年 2 月

宇都宮市河内自治会議

も く じ

1	はじめに	1
2	提案の作成について	
	(1) 10年間の集大成	3
	(2) テーマの体系	3
3	テーマについて	
	(1) 「教育, 文化, 健全育成」について	4
	(2) 「福祉, 健康, 安全・安心」について	9
	(3) 「産業・経済, 観光」について	13
	(4) 「自然環境, 都市環境」について	16
4	審議の経過	19
5	おわりに	20
6	委員名簿	21
7	歴代委員名簿	22

【表紙の写真の説明】

1 はじめに

平成19年3月の市町合併を機に設置された河内自治会議は、魅力ある地域づくりを目指す地域自治制度における住民代表組織として設置され、合併市町村基本計画に係る執行状況の答申や地域のまちづくりに関する施策の提案を行ってまいりました。

地域のまちづくりに関する施策の提案につきましては、河内地区が目指す「水と緑に囲まれ、やさしい居住空間にあふれる住みやすい地域」の実現に向け、現在の地域の現状と課題をとらえ、目標や実現方策など魅力ある地域の将来像を描き、提案するものであります。

第1期（平成19・20年度）は、「暮らしやすく、触れ合い交流に満ちた地域に向けて」をテーマに、第2期（平成21・22年度）は、「住みやすく、生きいきとした地域を目指して」をテーマに提案書を取りまとめました。

さらに、第3期（平成23・24年度）以降は、これまでの提案とスタイルを変え、地域のまちづくりは地域自らが取り組むことを基本に、住民自治の観点から、「地域の多くの人の意見を集約したものとする。」、「自分たち（地域）が『何ができるか』を常に意識する。」、「10年後の理想と実現性を描く。」の3点を念頭に取り組んできたところです。

このような考えのもと、第3期は「教育、文化、健全育成」、第4期（平成25・26年度）は「福祉、健康、安全・安心」及び「産業・経済、観光」、第5期（平成27年度）は「自然環境、都市環境」

について、現状の把握、課題の抽出、目標設定、実現方策及び実現プランについて協議し、方向性を導き出し、地域全体でその目標に向かって取り組み、活動できるような提案を行ってまいりました。

市町合併後10年が経過し、河内自治会議の最終年度となる今年度は、合併後の社会情勢等の変化も踏まえ、これまでの提案を振り返り、総合的に検討して、10年間の集大成となる提案書をまとめたところです。

2 提案の作成について

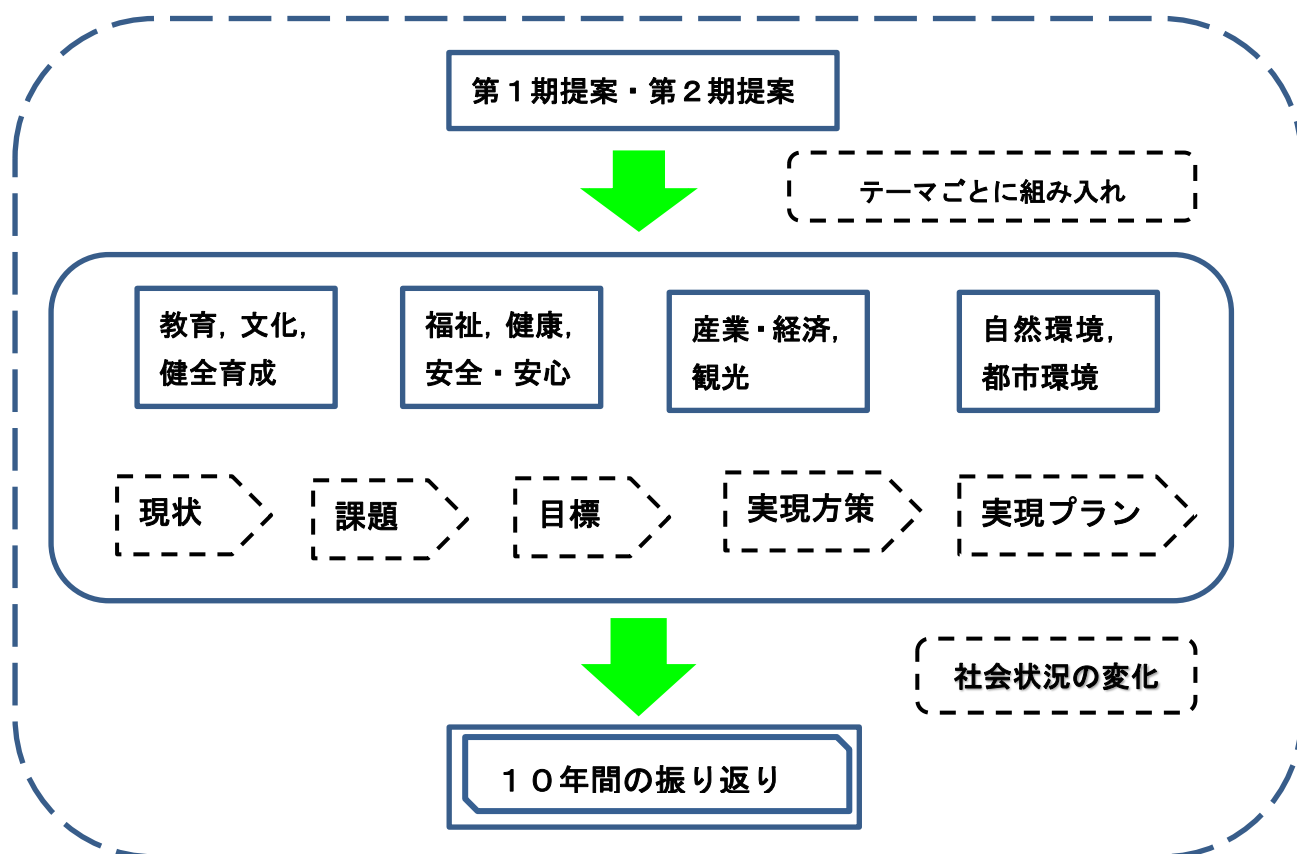
(1) 10年間の集大成

今回の提案は合併10年目を迎えた自治会議が最終年度となることから、第1期から第4期の提案を社会状況の変化を念頭において、総合的に検討していくことにしました。

また、地域の10年後の姿をイメージし、地域の多くの皆さんが様々な形で、まちづくりに関わっていただけますよう、より身近でわかりやすい提案内容としました。

(2) テーマの体系

第1期提案と第2期の提案については、テーマごとに分類されていなかったことから、今回、第3期以降の提案において分類された4つのテーマに組み入れ、振り返りを行いました。



3 テーマについて

(1)「教育, 文化, 健全育成」について

ア 現状と課題と目標

○⇒強み, ●⇒弱み

	① 教 育	② 文 化	③ 健全育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館, 学童保育, コミュニティプラザ等の教育環境が整っている。 ○自然環境や農業体験交流事業等の子どもの教育環境が整っている。 ○河内総合福祉センターがあり, 高齢者等の集える場所がある。 ●地域や家庭の教育力が十分とは言えない。 ●地域住民の横の連携やコミュニケーションが不足しており, 地域の絆が希薄である。 ●人材の発掘と活用ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の文化財が豊富である。 ○地域の人たちで文化財が大切に保存・伝承されている。 ●地域の文化財を次世代に引き継ぐ後継者が不足している。 ●文化財に関するPRが不足している。 ●地域文化財を公開する費用や人材が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に恵まれ, 子どもを健全に育成する環境が整っている。 ○青少年育成のための地域の活動が活発である。 ●子どもが自由に遊べる場が減少しており, 外で遊ばなくなっている。 ●学校と地域住民, 各種団体, 企業等との連携が不足している。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習のさらなる強化, 充実を図る必要がある。 ・豊富な自然環境を活かした生活, 活動, 学習の仕組みを作る必要がある。 ・子どもから高齢者まで学習できる仕組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財をまちづくりに活かす方策をつくる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成のさらなる強化・充実を図る必要がある。 ・地域の交流や活動の活性化を一層充実させる必要がある。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の充実により, 子どもから高齢者まで学べる『まち』 ・水と緑を活かした学びを通し, 自然と親しめる『まち』 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を活用し, 地域の魅力を発信する『まち』 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域みんなが楽しく行事に参加し, 交流の盛んな『まち』

イ 実現方策と実現プラン

① 教 育

目標生涯学習の充実により，子どもから高齢者まで学べる『まち』

【実現方策1】 子どもから高齢者まで学べる場をつくる

【実現プラン】

- ・昔遊びなど，地域ボランティアによる集いと学びの場を開設する。
- ・地域内施設で展示や発表会を開催する。

【実現方策2】 地域が主体となって学びの場をつくる

【実現プラン】

- ・地域特産物を創造し農業などの体験学習を行う。
- ・地産地消のための郷土料理を研究する。

【実現方策3】 高齢者の知識や経験を子どもたちに伝える

【実現プラン】

- ・知識や経験を子どもに伝える指導者養成講座を開催する。
- ・地域の達人の人材バンクを創設する。
- ・小・中学校への出前講座を開催する。

【目標】水と緑を活かした学びを通し、自然と親しめる『まち』

【実現方策4】地域の貴重な自然を守る教育を進める

【実現プラン】

- ・自然観察マップを作成する。
- ・小・中学生に、環境保全の体験型学習や出前講座を開催する。
- ・地域住民を対象に、観察会や自然保護セミナーを開催する。

【実現方策5】地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす

【実現プラン】

- ・自然を活用した散策コースを設定し、散策マップを作成する。
- ・魚のつかみ取り大会の開催やビオトープ等を作る。
- ・自然の中で音楽会を開催する。

【実現方策6】農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ

【実現プラン】

- ・野菜作りの農業体験を実施する。
- ・特産品を使った料理教室や伝統料理の教室を開催する。
- ・B級グルメのコンテストを開催する。

【実現方策7】次代を担う教育活動に取り組む

【実現プラン】

- ・空き地等を利用して、子どもたちに農業体験を実施する。
- ・地域の先生を募り、特色や特産品を作るとともに、その利用法を学ぶ。
- ・IT教育を推進し、国際交流の場を設ける。

② 文 化

目標文化財を活用し、地域の魅力を発信する『まち』

【実現方策 8】文化財を多くの人に知ってもらう

【実現プラン】

- ・文化財の見学コースを設定し、案内マップを作成する。
- ・文化財解説ボランティアによる勉強会（見学会）を開催する。
- ・歴史資料の展示会を開催する。

【実現方策 9】文化財をまちづくりに活かす

【実現プラン】

- ・景観形成重点地区（白沢宿）の観光コースを設定する。
- ・地域ボランティアにより文化財案内所を設置・運営する。
- ・文化財を活用したイベントの開催にあわせて、特産物等を販売する。

【実現方策 10】文化財を守り伝える人材を育成する

【実現プラン】

- ・人材育成の勉強会や講習会等を開催する。
- ・文化財一覧表等を作成し、データ管理を行う。
- ・文化財の見学コースや場所などをデータベース化し、ネット上で公開する。

③ 健全育成

目標 地域みんなが楽しく行事に参加し、交流の盛んな『まち』

【実現方策 1 1】 地域みんなが楽しめる交流の場をつくる

【実現プラン】

- ・運動会等の各種イベントで河内音頭を普及させる。
- ・各種イベントを開催する。（連凧の競技会・芋煮会・かかしまつり・田んぼの中でスライドや映画の鑑賞会など）
- ・空家利用のカフェやおしゃべりサロンを開催する。

【実現方策 1 2】 地域の各種団体や学校との連携を強化する

【実現プラン】

- ・地域と学校が連携して、子どもの作品展を開催する。
- ・各種団体による出前講座を開催する。

【実現方策 1 3】 地域活動の指導者を育成する

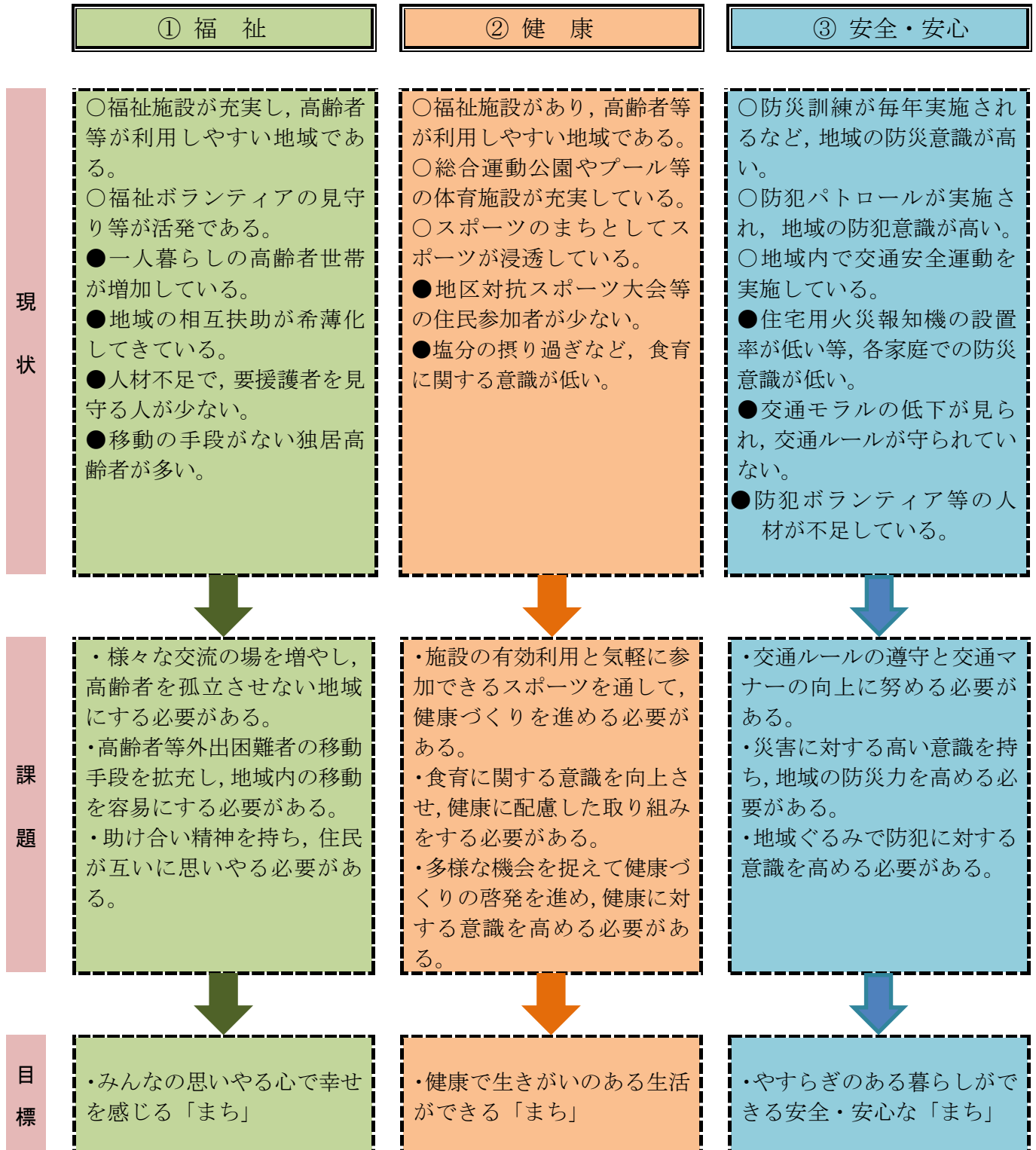
【実現プラン】

- ・指導者を育成するカリキュラムを作成し、養成講座を開催する。
- ・地域ボランティア登録制度を充実し、活用する。

(2)「福祉, 健康, 安全・安心」について

ア 現状と課題と目標

○⇒強み, ●⇒弱み



イ 実現方策と実現プラン

① 福祉

目標 みんなの思いやる心で幸せを感じる「まち」

【実現方策1】世代を超えた交流の場を充実させる

【実現プラン】

- ・地域施設を活用し、地域サロンなどを開設する。
- ・昔遊び等を通して世代を超えた交流を行う。

【実現方策2】すべての住民の生活の利便性を確保する

【実現プラン】

- ・外出困難者が宅配で買い物などができる手段をつくる。
- ・さぎそう河内号等の利用を広めて、誰もが気軽に外出できるようにする。

【実現方策3】地域が連携して住民の生きがいをづくりをする

【実現プラン】

- ・地域で生きがいをづくりの場をつくる。
- ・地域の人材を活かした講座や教室等を開催する。
- ・手づくり特産品を認定し、ネット等で販売する。

② 健康

目標健康で生きがいのある生活ができる「まち」

【実現方策4】誰もが楽しめるスポーツを通して健康増進を図る

【実現プラン】

- ・健康増進のため、ウォーキングマップを作成しウォークラリー等を開催する。
- ・地域の施設を利用したスポーツ教室等を開催する。

【実現方策5】食育や地産地消を通して健康づくりを進める

【実現プラン】

- ・食育セミナーを開催する。
- ・地区内で採れた農産物を利用し、イベント等を開催する。

【実現方策6】ひとりひとりの健康に対する意識を高める

【実現プラン】

- ・地域で健康イベントの開催等を行い、健診意識を高める。
- ・自治会単位で体力テストを実施する。
- ・福祉まつり等で健康度の調査を拡充させる。

③ 安全・安心

目標 やすらぎのある暮らしができる安全・安心な「まち」

【実現方策 7】 交通安全意識を高めて安全で安心な交通環境づくりを進める。

【実現プラン】

- ・交通安全教室を開催する。
- ・地域の危険マップを作成し、危険箇所での安全指導をする。

【実現方策 8】 防災意識を地域に浸透させて防災行動力を高める

【実現プラン】

- ・自治会で避難訓練等を実施し、防災意識を高める。
- ・自治会掲示板等を活用した緊急時の情報伝達の訓練を実施する。

【実現方策 9】 防犯意識を高めて地域の防犯力の向上を図る

【実現プラン】

- ・警察・学校・家庭と連携して防犯教育を行う。
- ・声かけあいさつ運動を実施する。

【実現方策 10】 安全な道路環境の整備を図る。

【実現プラン】

- ・見通しが困難な箇所の点検整備をする。
- ・JR宇都宮線踏切に歩行者などの通路の設置を求める。
- ・手づくり道路標識（安全標語）を立てる。

(3)「産業・経済, 観光」について

ア 現状と課題と目標

○⇒強み, ●⇒弱み

ア 産業・経済

イ 観光

現
状

- 豊かな農産物がある。
- 野菜や果物など良質な農産物の産地である。
- 水や土壌など農産物の生産に適した条件が整っている。
- 食品やバス, 電車等の部品を製造する企業がある。
- 河内工業団地と白沢工業団地がある。
- 地元の農産物を販売する施設が少ない。
- 河内ブランドの知名度が低い。
- 農業の担い手が少ない。
- 地域内の企業のPRが不足している。

- 屋台や天棚など歴史のある文化財や伝統行事がある。
- 水や緑など豊かな自然に恵まれている。
- 岡本家住宅や白沢宿など地域に観光スポットがある。
- 河内の観光のPRが不足している。
- 観光施設の駐車場や休憩所等が整備されていない。
- 伝統継承者が少なくなっている。

課
題

- ・地元の特産物のブランド力を高める必要がある。
- ・農業の担い手づくりをする必要がある。
- ・地元住民と企業との交流を拡大する必要がある。

- ・地域文化資源や自然環境を観光に活かす必要がある。
- ・地域の伝統文化を残す必要がある。

目
標

・地域に特産物があり産業や経済が豊かな「まち」

・地域資源を活かした観光でにぎわう魅力ある「まち」

イ 実現方策と実現プラン

① 産業・経済

目標 地域に特産物があり産業や経済が豊かな「まち」

【実現方策1】 地域の特産物のブランド力を高める

【実現プラン】

- ・特産物にインパクトのあるネーミングを考案する。
- ・ITを活用し河内の特産物を広くPRする。
- ・各種の地域農産物を活用したカレンダーを作成し活用する。

【実現方策2】 魅力ある農業を浸透させ担い手を育成する

【実現プラン】

- ・付加価値の高い農産物を生産する。
- ・食育をとおして農業の良さをアピールする。
- ・魅力ある農業を目指した担い手を育成する。
- ・農業体験（4シーズン型・オーナー型）を実施する。

【実現方策3】 地域と企業との交流を拡大し連携する

【実現プラン】

- ・地域と企業が一体となったイベントを開催する。
- ・商工農についての勉強会を発足させる。

② 観 光

目標 地域資源を活かした観光でにぎわう魅力ある「まち」

【実現方策4】文化財を有効活用し観光につなげる

【実現プラン】

- ・メディア（新聞，テレビ等）を利用して全国に発信する。
- ・観光ボランティアを育成し，文化財巡りツアーを企画する。
- ・文化財マップの看板を作成する。

【実現方策5】自然環境の良さを活かし河内らしい観光スポットを充実させる

【実現プラン】

- ・ウォーキングルート・サイクリングルートのマップを作成する。
- ・観光スポットの休憩所や駐車場を確保する。

【実現方策6】伝統文化を守り続ける継承者を育成する

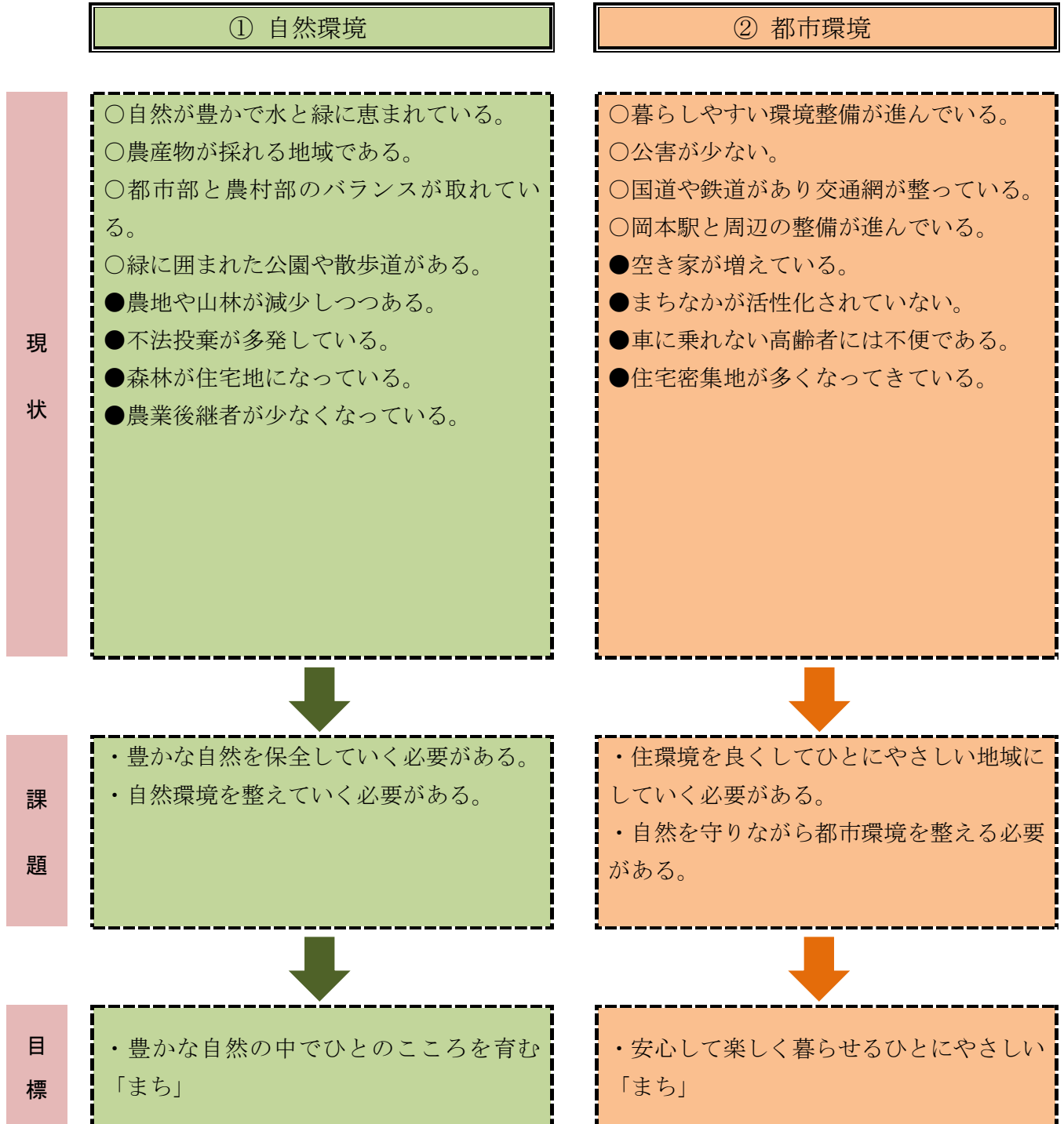
【実現プラン】

- ・埋もれた伝統資源を発掘し地域の宝にする。
- ・小中学校で地域の伝統文化の講座を開催し，伝統文化教育の充実を図る。
- ・中高年が中心になって若い世代を巻き込んだ伝統行事の保存育成を図る。

(4)「自然環境, 都市環境」について

ア 現状と課題と目標

○→強み, ●→弱み



イ 実現方策と実現プラン

① 自然環境

目標 豊かな自然の中でひとのこころを育む「まち」

【実現方策1】自然を守る学習や体験を充実する

【実現プラン】

- ・市民が活動しやすいよう学習の場を設ける。
- ・子ども達への有識者による指導で学習や体験をさせる。
- ・リーダー養成と組織化を進める。

【実現方策2】水と緑にふれあう機会を増やす

【実現プラン】

- ・自然とふれあうマップを作る。
- ・湧水池や河川を利用したイベントを実施する。
- ・地域内の遊び場を充実させる。

【実現方策3】自然を守るひとの輪をつくり地域力を高める

【実現プラン】

- ・地域の保護団体と連携を取り、地域力を高める。
- ・親子による自然観察会を開催する。
- ・クリーンな地域にするための活動を行う。

【実現方策4】環境負荷が少ない水資源の保全を図る

【実現プラン】

- ・山林の保水力の向上と湧水池の保全を進める。
- ・河川等のクリーン作戦を実施する。
- ・環境指導員を育成し、活動を広げる。
- ・有機農業や食用廃油石けんを普及させる。

② 都市環境

目標 安心して楽しく暮らせるひとにやさしい「まち」

【実現方策1】 情報を共有し安全なまちづくりを進める

【実現プラン】

- ・住民の安全意識を高めるための拠点を設ける。
- ・地域防災マップ等を活用し、地域の安全を守る。
- ・「地域を守るパトロール隊」をつくり、地域に情報を発信する。

【実現方策2】 花と緑にあふれたまちなみをつくる

【実現プラン】

- ・花と緑のコンテスト等を実施して、明るい『まちなみ』づくりを啓発する。
- ・公園や休耕地を利用した大型花壇を作る。
- ・全地域で「花いっぱい運動」を展開する。

【実現方策3】 農村部と都市部の交流を図る

【実現プラン】

- ・地域の食材を使った試食会等を実施する。
- ・地域の農・林生産物を利用し、地域ブランドをつくる。
- ・農業体験とイベントをとおして、都市部との交流をはかる。

4 審議の経過

第1期

平成21年 3月25日 提案書提出

・「健康で明るく暮らせるまちの創造」, 「次代を築く人材の育成」

第2期

平成23年 3月 2日 提案書提出

・「快適で安全・安心に暮らせるまちづくり」, 「多様な地域資源を活かしたまちづくり」「農業の多面的機能を活かしたまちづくり」

第3期

平成25年 2月19日 提案書提出

・テーマ「教育, 文化, 健全育成」

第4期

平成27年 2月18日 提案書提出

・テーマ「福祉, 健康, 安全・安心」

第5期

平成27年 6月22日 第3回自治会議

・個別テーマの現状把握の検討

平成27年 7月22日 第4回自治会議

・個別テーマの現状把握の確定, ・課題抽出の検討

平成27年10月23日 第5回自治会議

・課題抽出の確定, 10年後の目標設定及び実現方策の検討

平成27年12月18日 第6回自治会議

・10年後の目標設定及び実現方策の確定, 実現プランの検討

平成28年 2月19日 第7回自治会議

・実現プランの確定

平成28年 5月27日 第2回自治会議

・「教育, 文化, 健全育成」の振り返り

平成28年 6月27日 第3回自治会議

・「教育, 文化, 健全育成」の確定, 「福祉, 健康, 安全・安心」の振り返り

平成28年 8月 1日 第4回自治会議

・「福祉, 健康, 安全・安心」の確定, 「産業・経済, 観光」の振り返り

平成28年10月21日 第5回自治会議

・「産業・経済, 観光」の確定, 「自然環境, 都市環境」の振り返り

平成29年 1月16日 第6回自治会議

・「自然環境, 都市環境」の確定, 提案書(素案)の審議

平成29年 2月 日 第7回自治会議

・提案書の確定

5 おわりに

平成19年3月の市町合併から、まもなく10年が経過します。

この間、河内地区では、JR岡本駅の東西をつなぐ橋上駅舎化や駅周辺の整備、河内地域自治センターの建設、地域住民の日常生活の移動手段となる地域内交通「さぎそう河内号」の運行開始など、利便性や快適性が向上し、地区としての魅力が高まってきています。

合併時に設立した河内自治会議においては、地域住民の代表として意見を集約し、個性と活気にあふれた魅力ある地域づくりが行われるよう、また、住民一人ひとりが実感できる豊かさの創出に向け、地域のまちづくりに関する施策の提案を行ってきたところであり、今回で最終となる提案書の作成にあたりましては、社会情勢の変化などを勘案し、これまでの提案内容を振り返り、必要な見直しを行い、10年間の集大成としてふさわしい提案書としてまとめました。

昨年3月、地域主体のまちづくりのコーディネーター役である河内地区まちづくり協議会が10年後のあるべき姿を描いた「河内地区地域ビジョン」を策定したところですが、現在進めている実現プランや今後のローリングにおいて、また、宇都宮市が目指すネットワーク型コンパクトシティにおける河内の地域拠点を形成するための各種施策・事業を推進する上で、今回の提案書をぜひ参考にさせていただきたいと思います。

今後とも、地域ビジョンで掲げる「自然と人を大切に絆で結ぶ楽しいかわち」の実現を目指し、これからも住みたい、住み続けたいまち河内として、持続的に発展するよう、強く願うものであります。

結びになりますが，これまで河内自治会議の運営にご支援・ご協力をいただきました地域の皆さまや河内地区まちづくり協議会をはじめとする各種地域団体の皆さまに深く感謝申し上げます。

6 委員名簿

会 長	杉 原 弘 修
副会長	川 上 幸 子
委 員	岩 寄 悦 男
委 員	加 藤 幸 雄
委 員	菊 地 久美子
委 員	小曾戸 和 子
委 員	小 森 光 晴
委 員	櫻 井 基一郎
委 員	島 田 正 重
委 員	清 水 映 夫
委 員	白 坂 喜美雄
委 員	五月女 京 子
委 員	多田出 芳 子
委 員	田 村 正 男
委 員	永 井 寛
委 員	中 澤 敏 美
委 員	防 木 正 雄
委 員	松 谷 悦 広
委 員	宗 像 茂
委 員	山 田 祐 子
委 員	我 妻 勝 次

※委員名は、会長・副会長を除き50音順

7 歴代委員名簿

第1期（平成19～20年度）

（◎会長 ○副会長）

◎中村 祐司	○須藤 貢	青木 正子	上山 茂
太田 照男	大田原 加久司	菊地 久美子	小嶋 由美子
須藤 誠一	五月女 勝正	五月女 純	對馬 博幸
手塚 米子	永見 幹夫	西岡 隆義	日向 トモエ
前野 巖	松谷 悦広	森本 喜美子	山下 景二

第2期（平成21～22年度）

◎中村 祐司	○山根 登	伊藤 昭博	大田原 加久司
菊地 久美子	小嶋 由美子	駒田 静雄	櫻井 清一
渋井 トミ子	清水 康弘	五月女 勝正	五月女 純
手塚 米子	中西 幸子	永見 幹夫	西岡 隆義
福田 義雄	前野 巖	松谷 悦広	森本 喜美子

第3期（平成23～24年度）

◎杉原 弘修	○川上 幸子	石渡 重道	磯川 康男
伊藤 昭博	太田 達彦	加藤 幸雄	君島 京子
駒田 静雄	櫻井 基一郎	渋井 トミ子	清水 恵美
五月女 京子	高久 剛一	田村 正男	中西 幸子
真壁 諦	松谷 宣子	吉田 恵美子	

第4期（平成25～26年度）

◎杉原 弘修	○川上 幸子	大谷津 健敏	小野 章
加藤 幸雄	君島 京子	小森 光晴	櫻井 基一郎
関口 啓子	多田出 芳子	永井 寛	中澤 敏美
中村 房夫	船橋 あけみ	宗像 茂	森 由利子
山田 ちい子	山田 祐子	我妻 勝次	若林 知

※委員名は、会長・副会長を除き50音順